

参考事例5

< 事例概要 >

- ① 60 歳代、知的障害があり、施設入所中。施設内で倒れており、救急搬送された外来患者。
- ② 原因検索目的の検査。D-dimer のパニック値の設定無。
- ③ 医師はD-dimer 43.6 $\mu\text{g/ml}$ を認識しておらず、胸腰椎移行部痛があったが、筋骨格系起因であると判断し帰宅させた。帰宅後も症状持続、嘔吐出現あり、再受診したが、病院到着時は意識消失、頸動脈触知不可であった。心臓超音波検査で心嚢水貯留あり、心膜開窓術で血性排液多量。
- ④ 受診当日（パニック値検出より約11 時間後）に死亡。
- ⑤ 死因は、上行大動脈から両側総腸骨動脈に連続する大動脈解離、心タンポナーデ。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。